

入選

ぼくの身近な水について

浦和実業学園中学校 一年 中山 恵

ぼくたちが住んでいる日本は、水がきれいな国だと思います。世界で水道水を安全に飲める国は数ヶ国しかありません。その中に日本が入っています。アフリカなどの支援を求めている国は、水がなくて泥水を飲んで死んでしまったり、腹痛になったりします。不衛生で汚れている水を使うことで毎日八百人以上の乳幼児が下痢症で命を落としています。飲み水などとして使用している水が飲用に適さない水源であり、その中には泥や細菌、動物の糞尿が混ざっていて、不衛生どころか飲料水として使うことさえ危険なのだそうです。日本は、水に恵まれている国だと思います。

ぼくは、ジュースより水の方が好きです。水筒には水しか入れた事がありません。水はサツパリしていて、暑い時やのどがカラカラになった時に飲むと最高においしいです。みんなにも水のおいしさと味を知ってほしいです。

毎年夏休みには、湖畔のキャンプに家族で行くのがぼくの楽しみです。そこでは高台から湖に飛び込んだり、カヌーやスタンドアップパドルで少し離れた対岸まで漕いでいきます。魚釣りやエビをすくったり、このキャンプでは、水との関わりがとても深いです。湖の水は、雨量によって変化します。雨が少ししか降らなかつた夏は水位がかなり下がっていました。その夏は、高台からの飛び込みができない年になってしまいました。

水は、飲むこともできます。水で遊ぶこともできます。水はぼくたちの生活において欠かせないものです。

ぼくが住んでいる埼玉県春日部市には、龍Q館という首都圏外郭放水路があります。首都圏外郭放水路とは中小河川の洪水を地下に取りこみ、江戸川に流す地下放水路のことです。この龍Q館というのは、人々を洪水から守り、水を貯めることが出来る施設です。

ぼくは、小学三年生の時に社会科見学で龍Q館に行ったことがあります。

百十六段の階段を下り、地下五十メートルの調圧水槽に辿りつきます。まるでそこはバルテノン神殿のようでした。調圧水槽は幅七十八メートル、長さ百七十七メートルもあります。調圧水槽のコンクリート製の柱は五十九本あり、春日部の巨大地下神殿と言われています。見学はここまでしか出来なかつたけれど、調べてみると構成されている施設は大別して四つあり、水を取りこむ〈立坑〉取りこんだ水を流す〈トンネル〉水を一旦地下に溜めておく〈調圧水槽〉、そして貯まった水を吐き出す〈排水機場〉となります。立坑は深さ七十メートルあり、第一から第五までの五本はトンネルでつながっていて、その長さ六・三キロメートルもあります。この首都圏外郭放水路は春日部の龍Q館だけではありません。

二〇一九年台風十九号では、首都圏では都内の多摩川、川越市の越辺川などが氾濫しました。利根川や荒川などが危険水位に達して緊張状態が続くことになりました。春日部市内にも防災サイレンが鳴り響きました。しかし首都圏外郭放水路のおかげで、ぼくの住む町は大きな氾濫はありませんでした。その様子はテレビでも報道されていました。ぼくは龍Q館に感謝し、とても誇らしく思いました。

ぼくにとって水はあたり前にあるものですが、あたり前でない国もあります。未だ水害で復興が続く地域もたくさんあります。水に感謝し、これからも大切に使いたいです。